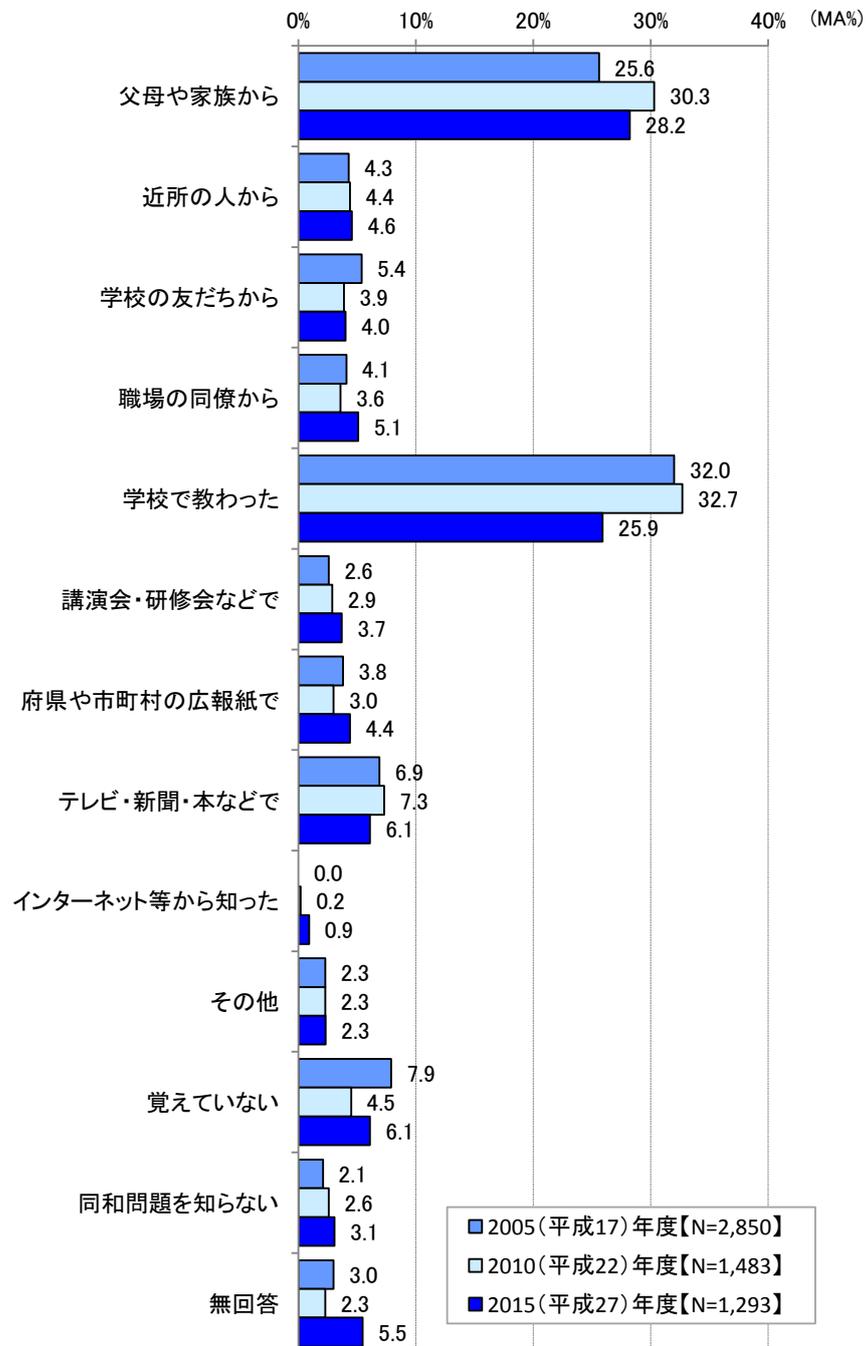


Ⅲ 経年比較

1 同和問題について

(1) 同和問題や被差別部落を知った経緯（問8）

【図表 1-1 同和問題や被差別部落を知った経緯の推移】

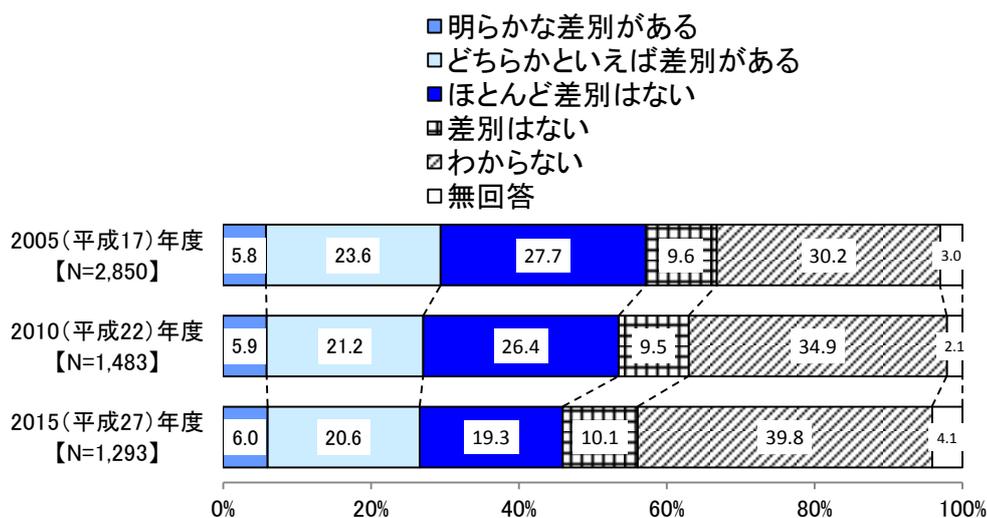


同和問題や被差別部落を知った経緯の推移をみると、前々回調査（2005（平成17）年度）、前回調査（2010（平成22）年度）、今回調査（2015（平成27）年度）ともに「父母や家族から」と「学校で教わった」が高くなっている。

「学校で教わった」は、前々回・前回調査では3割あまりだったが、今回調査では3割を下回っている。（図表 1-1）

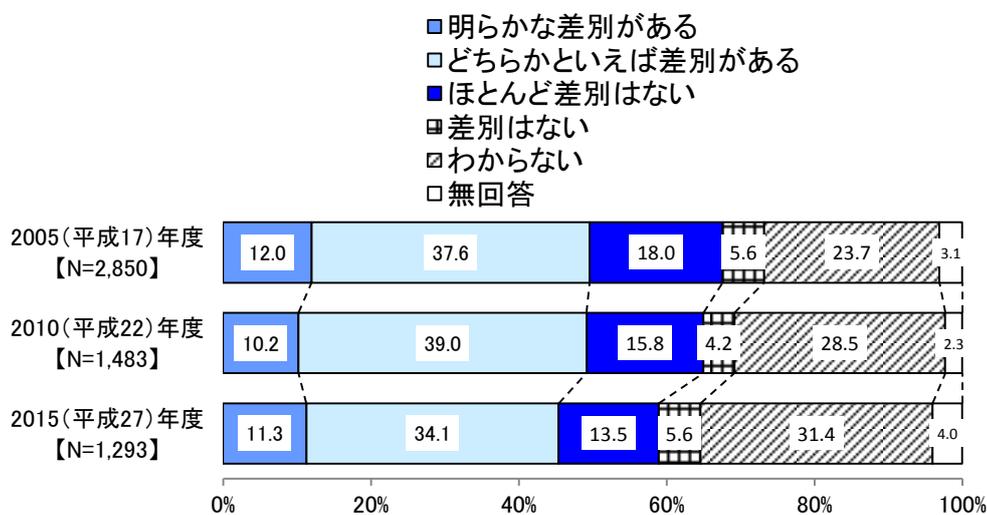
(2) 就職、結婚、引っ越しや住宅の購入時の部落差別について (問9)

【図表 1-2-1 ア. 就職についての部落差別の推移】



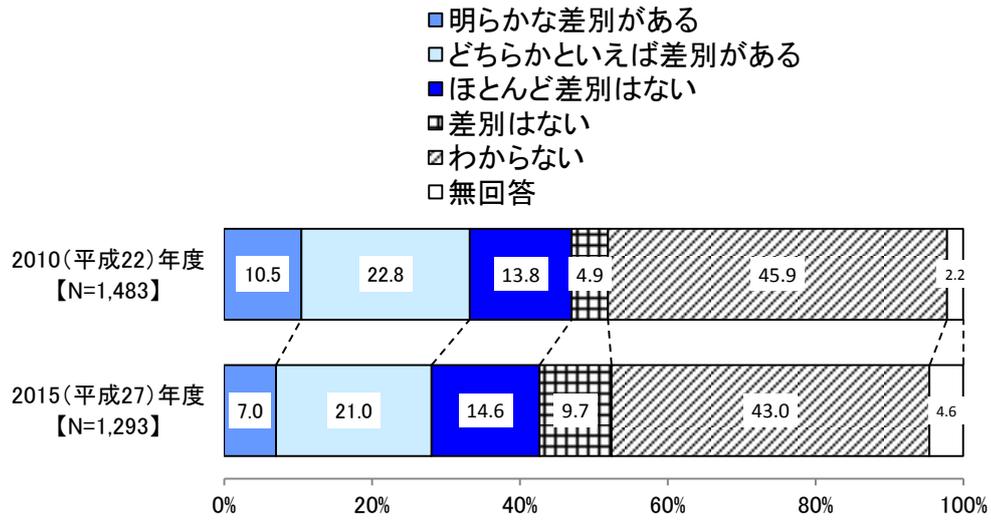
「ア. 就職について」の部落差別の推移をみると、“差別がある”は大きな変化はみられないが、“差別はない”が減少し、「わからない」が増加している傾向がみられる。(図表 1-2-1)

【図表 1-2-2 イ. 結婚についての部落差別の推移】



「イ. 結婚について」の部落差別の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて“差別がある”に大きな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて3.8ポイント減少している。(図表 1-2-2)

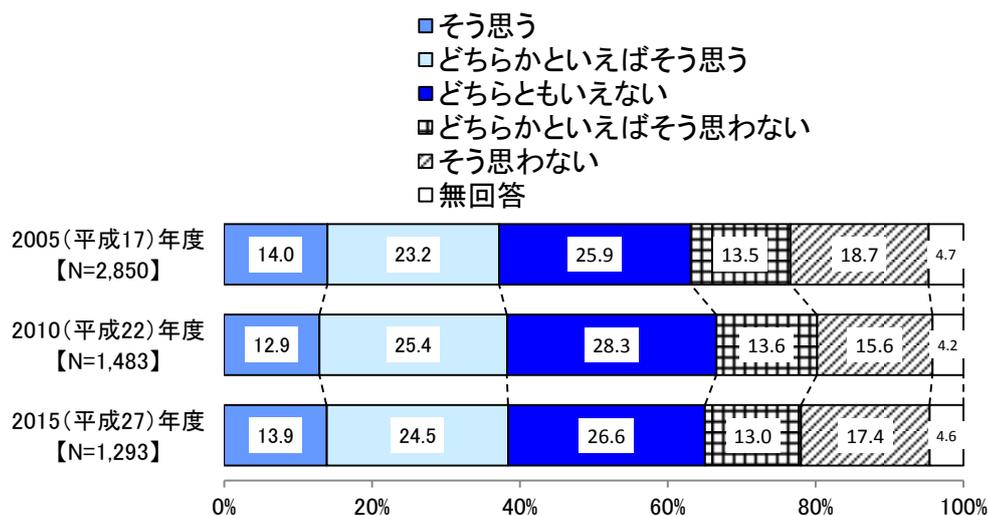
【図表 1-2-3 ウ. 引っ越しや住宅の購入に際しての部落差別の推移】



「ウ. 引っ越しや住宅の購入に際して」の部落差別の推移をみると、“差別がある”が5.3ポイント減少し、“差別はない”が5.6ポイント増加している。(図表 1-2-3)

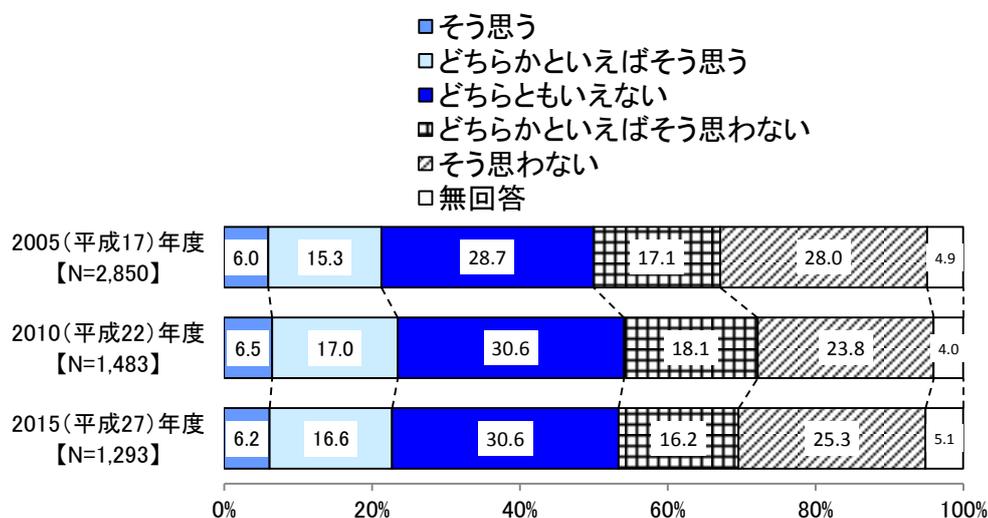
(3) 同和問題についての考え方 (問 10)

【図表 1-3-1 ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話であるの推移】



「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」の推移をみると、“肯定派”と“否定派”の割合に大きな変化はみられない。(図表 1-3-1)

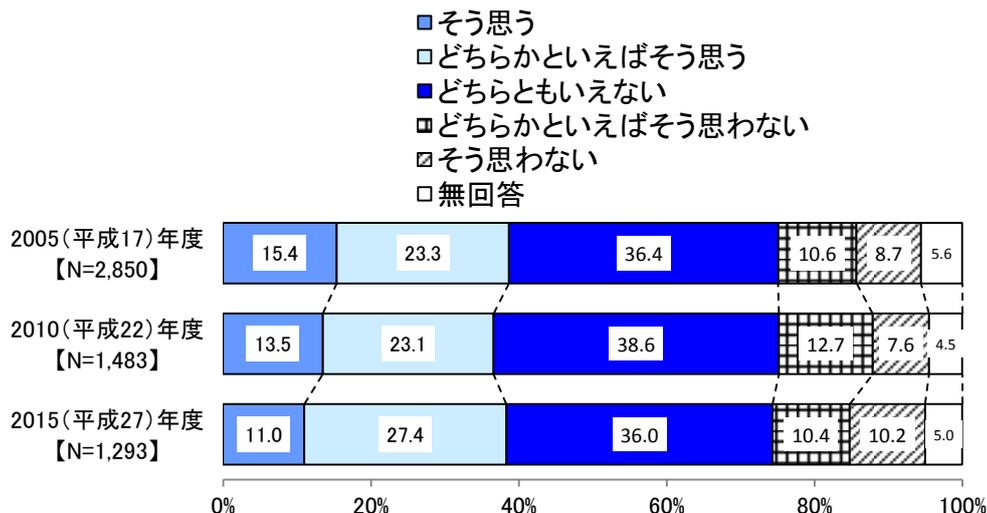
【図表 1-3-2 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じるの推移】



「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」の推移をみると、“肯定派”と“否定派”の割合に大きな変化はみられない。(図表 1-3-2)

【図表 1-3-3 ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、

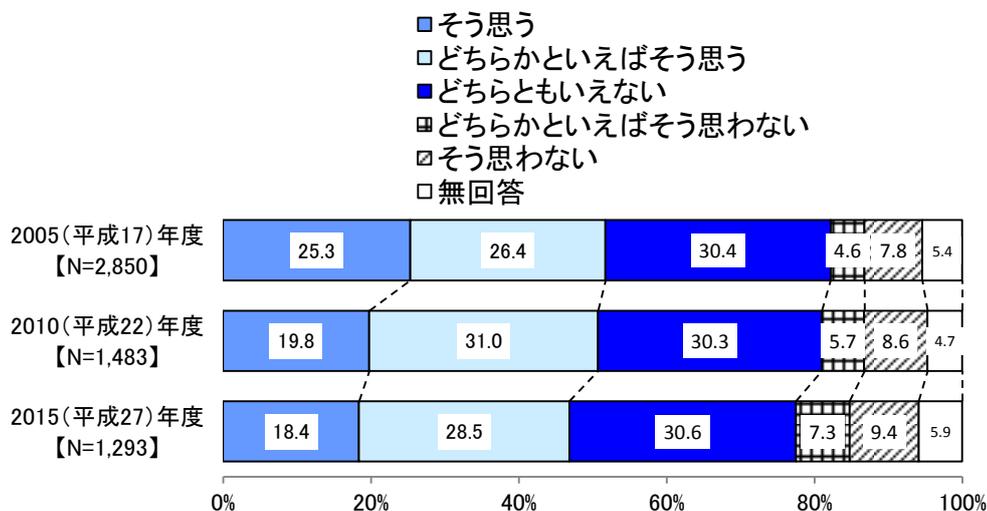
差別について厳しく追求するのも理解できるの推移】



「ウ. 今まで差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追求するのも理解できる」の推移をみると、「肯定派」と「否定派」の割合に大きな変化はみられない。(図表 1-3-3)

【図表 1-3-4 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、

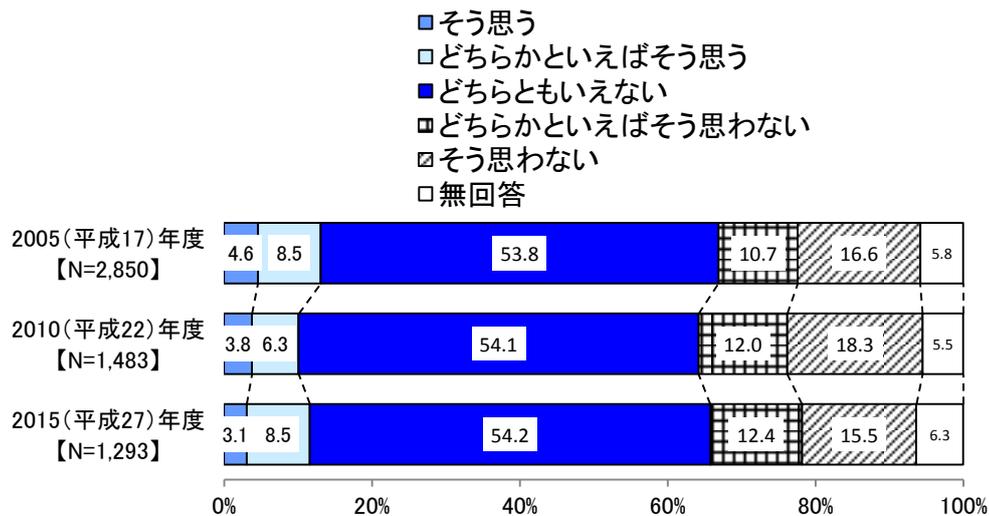
他の人権問題にもプラスになるの推移】



「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」の推移をみると、「肯定派」が減少し、「否定派」が増加している傾向がややみられる。(図表 1-3-4)

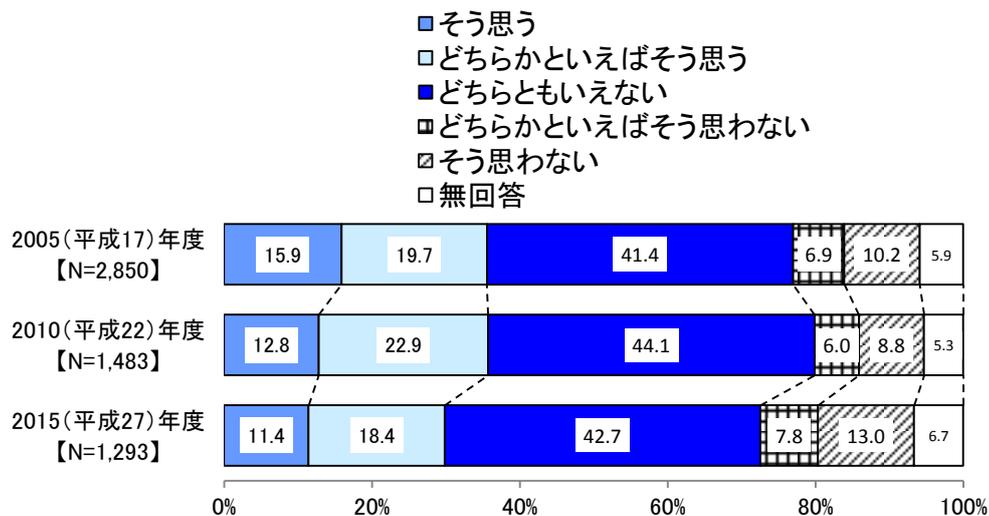
【図表 1-3-5 オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、

人として思いやりがある人が多いの推移】



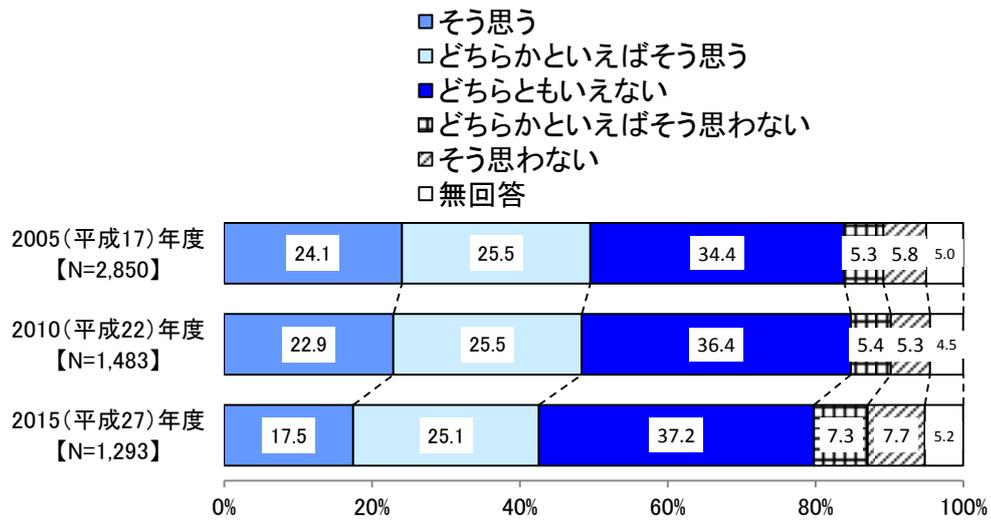
「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりがある人が多い」の推移をみると、“肯定派”と“否定派”の割合に大きな変化はみられない。(図表 1-3-5)

【図表 1-3-6 カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくるの推移】



「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて大きな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて“肯定派”が 5.9 ポイント減少し、“否定派”が 6 ポイント増加している。(図表 1-3-6)

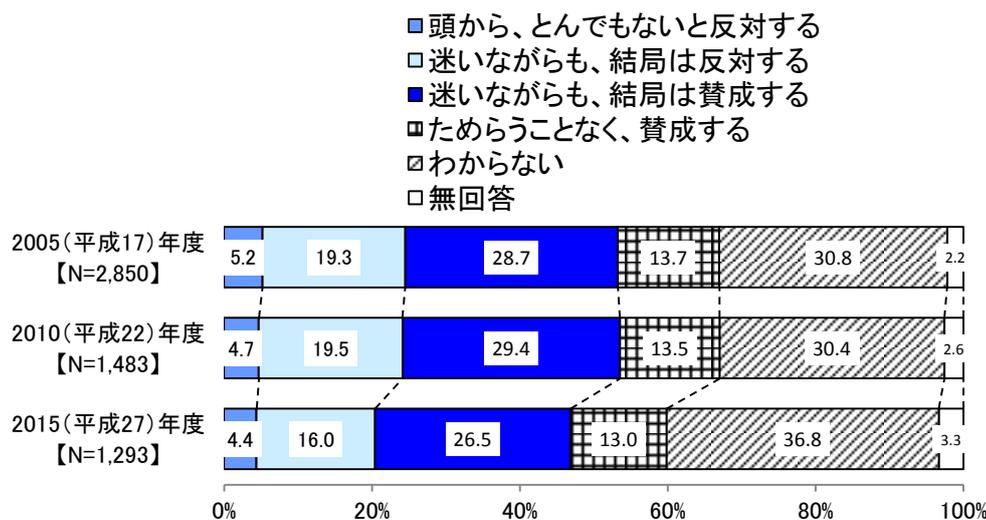
【図表 1-3-7 キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎるの推移】



「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて大きな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて“肯定派”が 5.8 ポイント減少し、“否定派”が 4.3 ポイント増加している。(図表 1-3-7)

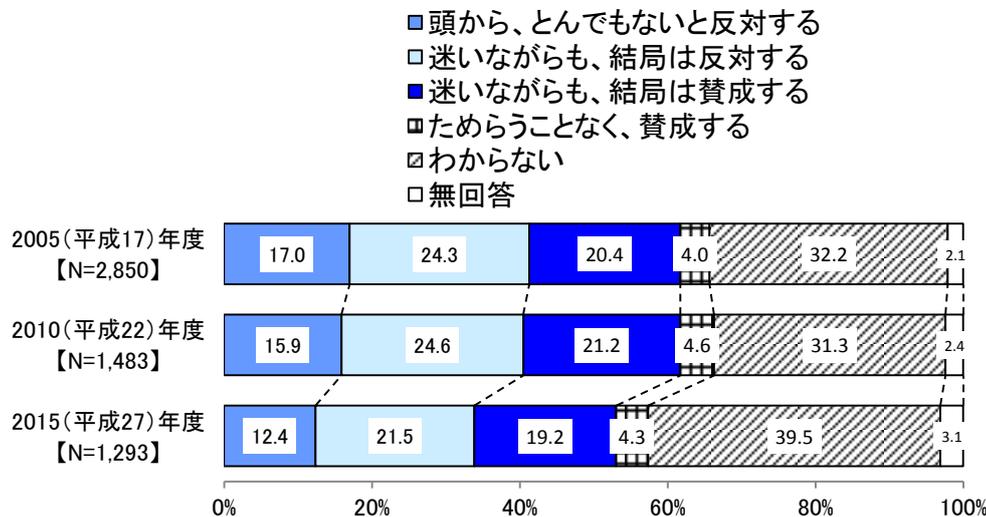
(4) 同和地区の方との結婚について (問 11)

【図表 1-4-1 ①あなたは親として、どのような態度をとるとお考えか】の推移



「①あなたは親として、どのような態度をとるとお考えか」の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて大きな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて“反対派”が3.8ポイント減少しているが、“賛成派”も3.4ポイント減少している。(図表 1-4-1)

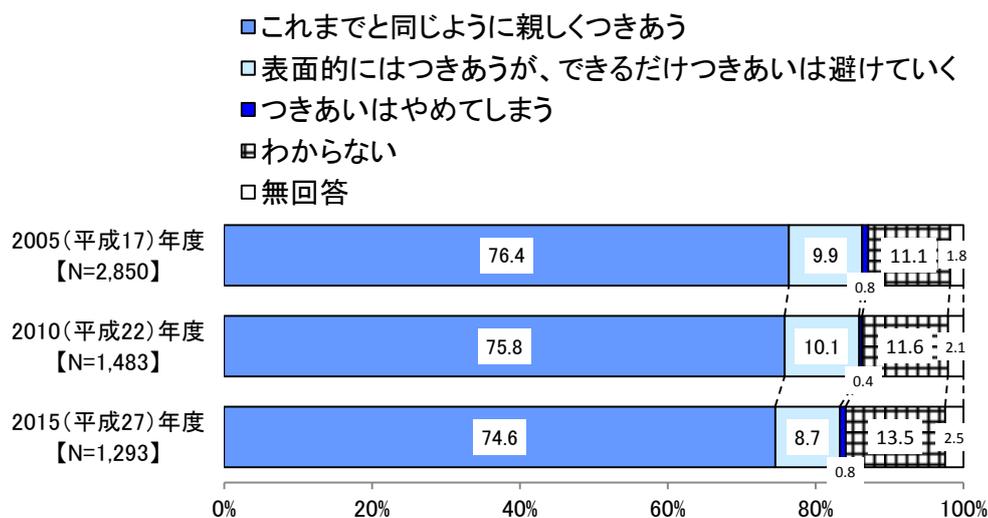
【図表 1-4-2 ②あなたの身近な親類は、どのような態度をとるとお考えか】の推移



「②あなたの身近な親類は、どのような態度をとるとお考えか」の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて大きな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて“反対派”が6.6ポイント減少しているが、“賛成派”も2.3ポイント減少している。(図表 1-4-2)

(5) 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合（問 12）

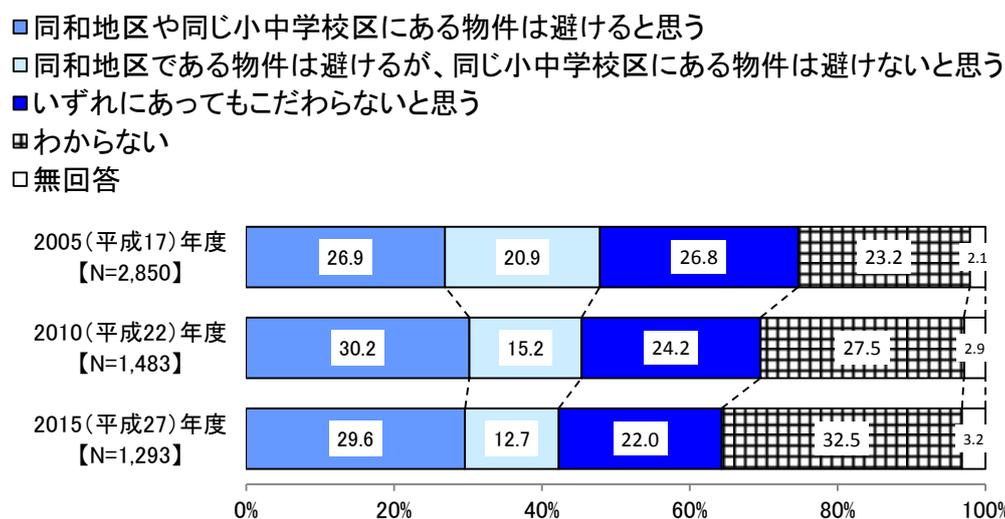
【図表 1-5 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合の推移】



日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合の推移をみると、「これまでと同じように親しく付き合う」は減少している傾向がややみられる。（図表 1-5）

(6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて（問 13）

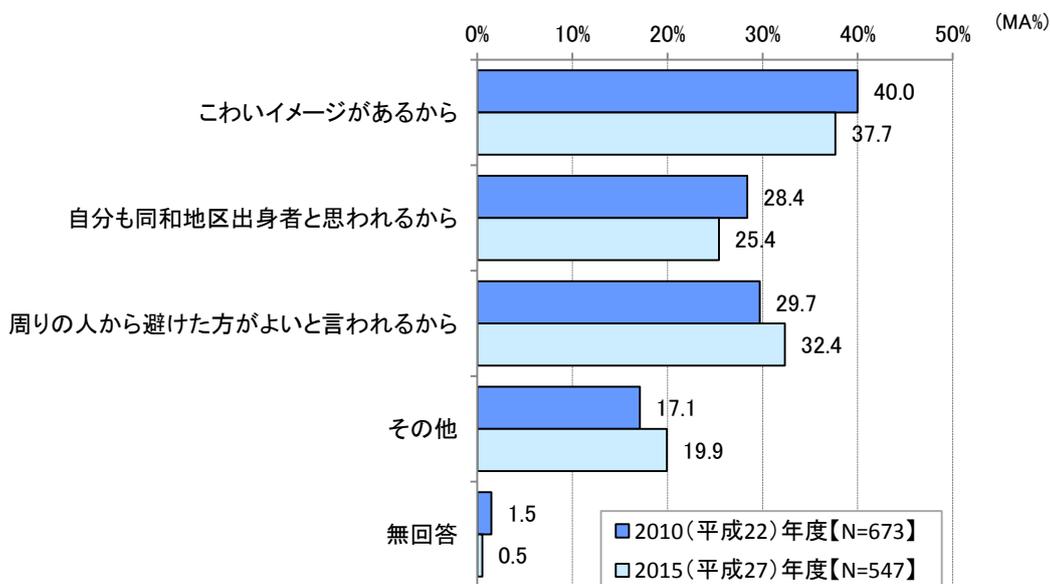
【図表 1-6 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについての推移】



同和地区内で住宅を購入、賃貸することについての推移をみると、“同和地区を避ける”は減少している傾向がみられるが、「いずれにあってもこだわらないと思う」も減少している傾向がみられる。（図表 1-6）

(7) 同和地区を避ける理由 (問 14)

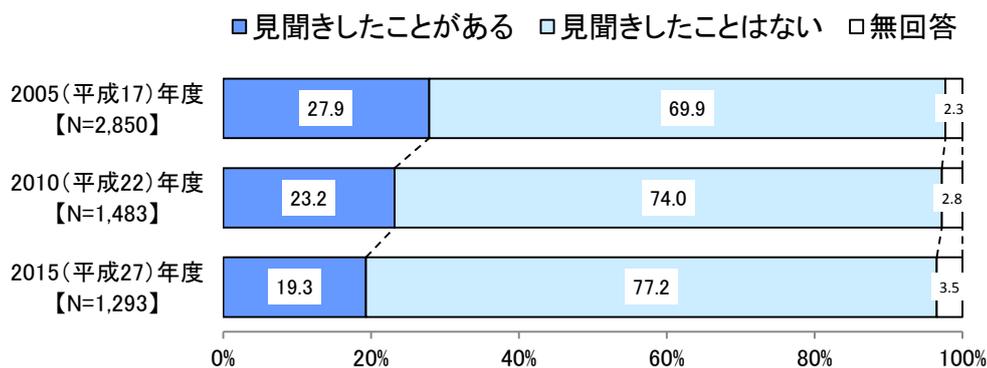
【図表 1-7 同和地区を避ける理由の推移】



同和地区を避ける理由の推移をみると、今回調査は前回調査と比べて「こわいイメージがあるから」と「自分も同和地区出身者と思われるから」がそれぞれ2.3ポイント、3ポイント減少し、「周りの人から避けた方がよいと言われるから」が2.7ポイント増加している。(図表 1-7)

(8) 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験 (問 15)

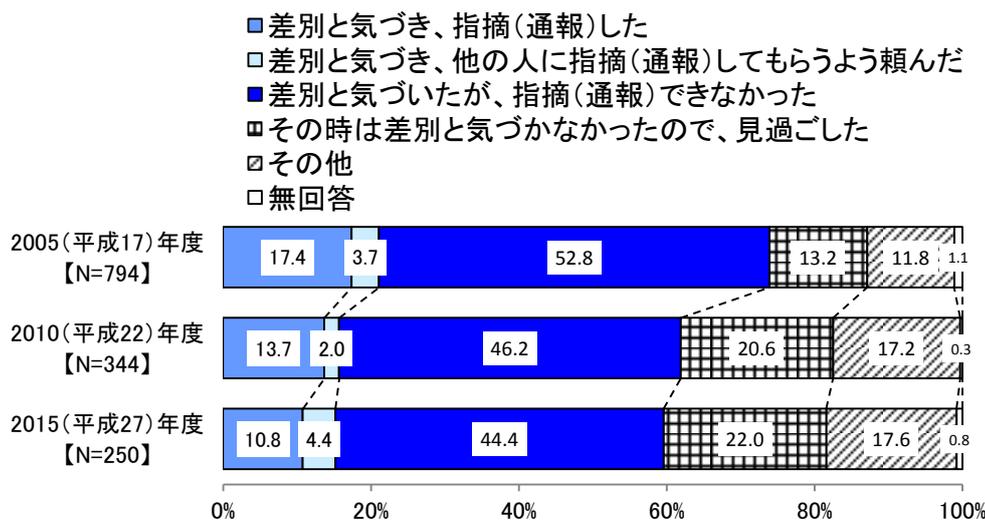
【図表 1-8 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験の推移】



同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験の推移をみると、「見聞きしたことがある」は減少している傾向がみられる。(図表 1-8)

(9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応 (問 16)

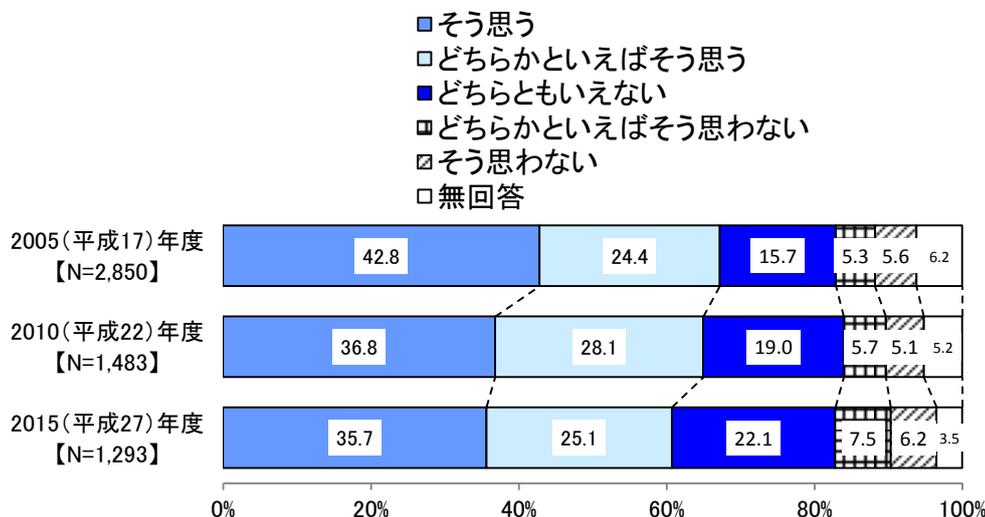
【図表 1-9 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応の推移】



同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応の推移をみると、“指摘した”は減少している傾向がみられる。(図表 1-9)

(10) 部落差別をなくす方法に関する意見 (問 17)

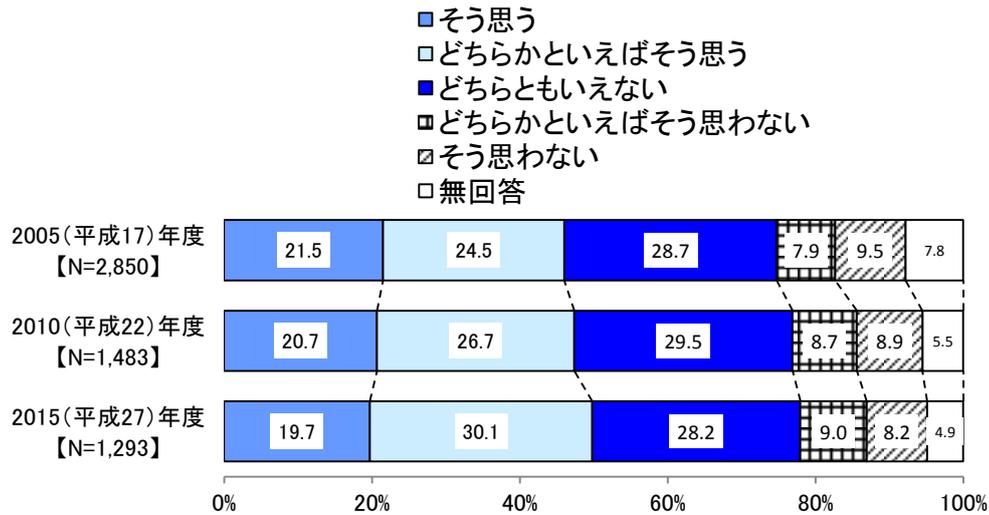
【図表 1-10-1 ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよいの推移】



「ア.「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」の推移をみると、“否定派”は前々回・前回調査と比べて約3ポイント増加している。“肯定派”は減少している傾向がみられる。(図表 1-10-1)

【図表 1-10-2 イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、

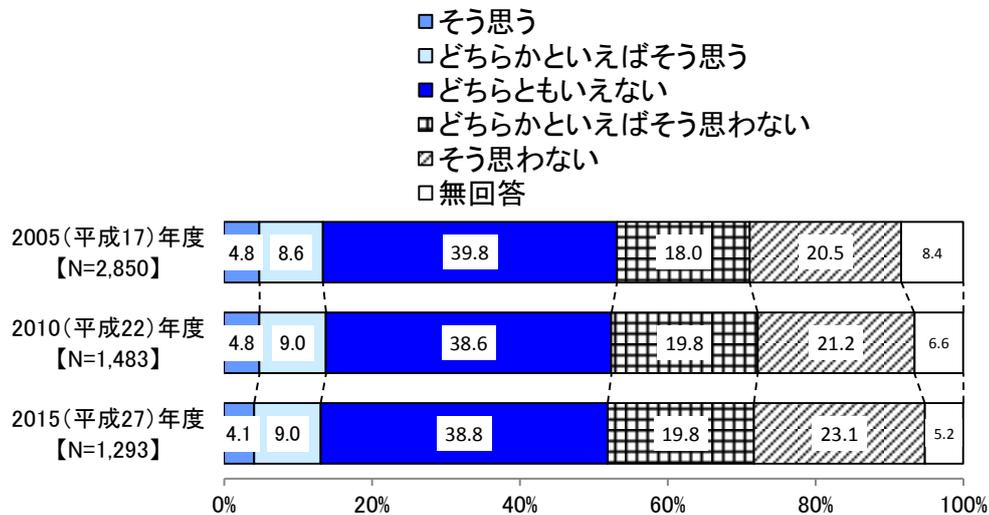
部落差別はなくなるの推移】



「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」の推移をみると、“否定派”は大きな変化はみられないが、“肯定派”は増加している傾向がややみられる。(図表 1-10-2)

【図表 1-10-3 ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、

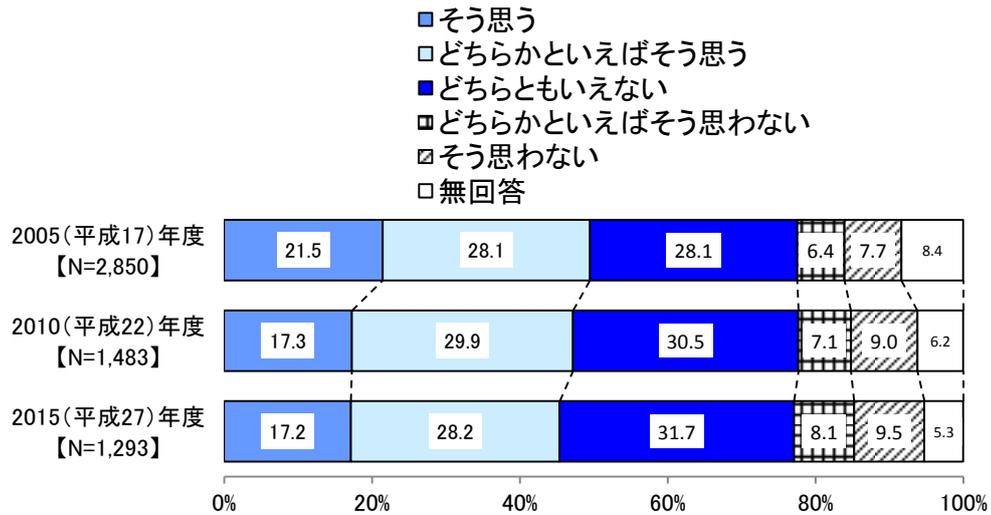
人々に働きかければ、差別はなくなるの推移】



「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」の推移をみると、“肯定派”は大きな変化はみられないが、“否定派”は増加している傾向がややみられる。(図表 1-10-3)

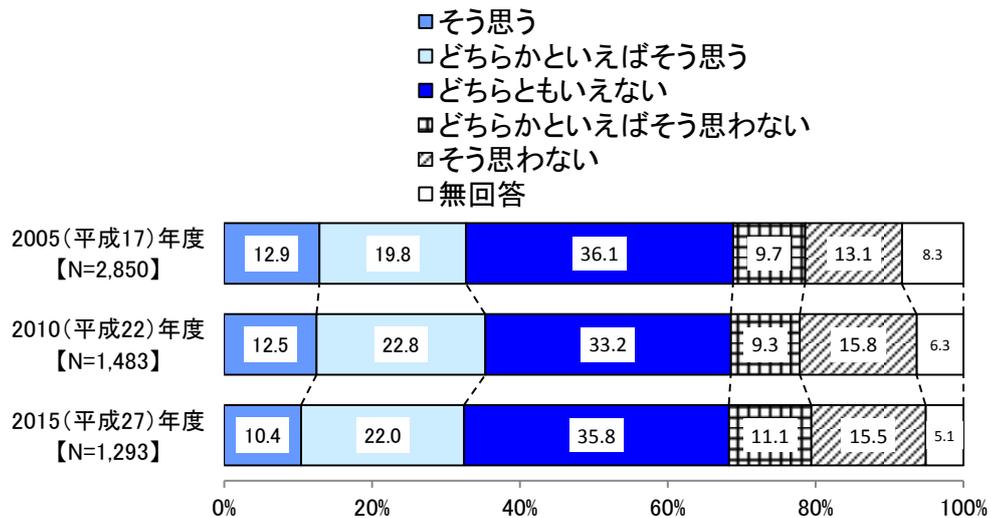
【図表 1-10-4 エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、

差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなるの推移】



「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」の推移をみると、“肯定派”が減少し、“否定派”が増加している傾向がややみられる。(図表 1-10-4)

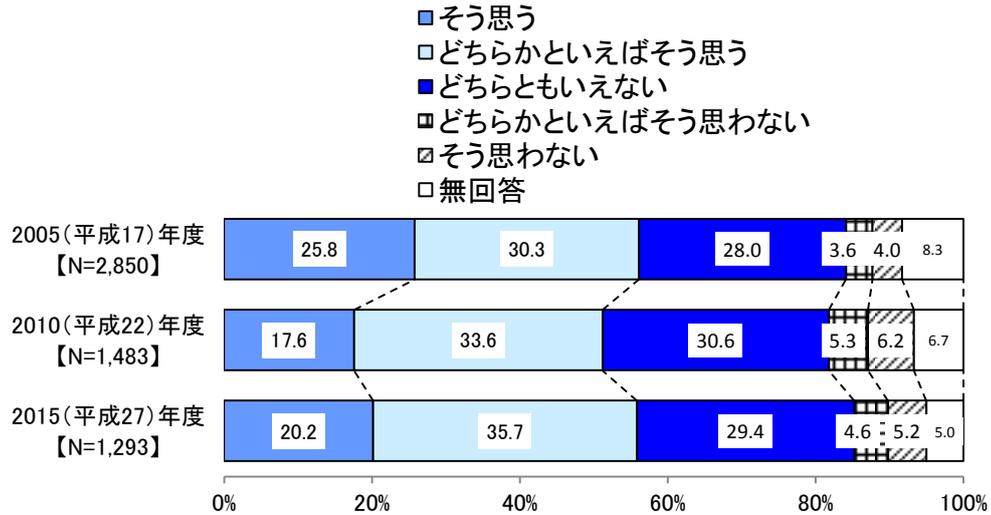
【図表 1-10-5 オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなるの推移】



「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」の推移をみると、“肯定派”は前々回調査と比べるとほとんど変化はみられないが、前回調査と比べると 2.9 ポイント減少している。“否定派”は増加している傾向がややみられる。(図表 1-10-5)

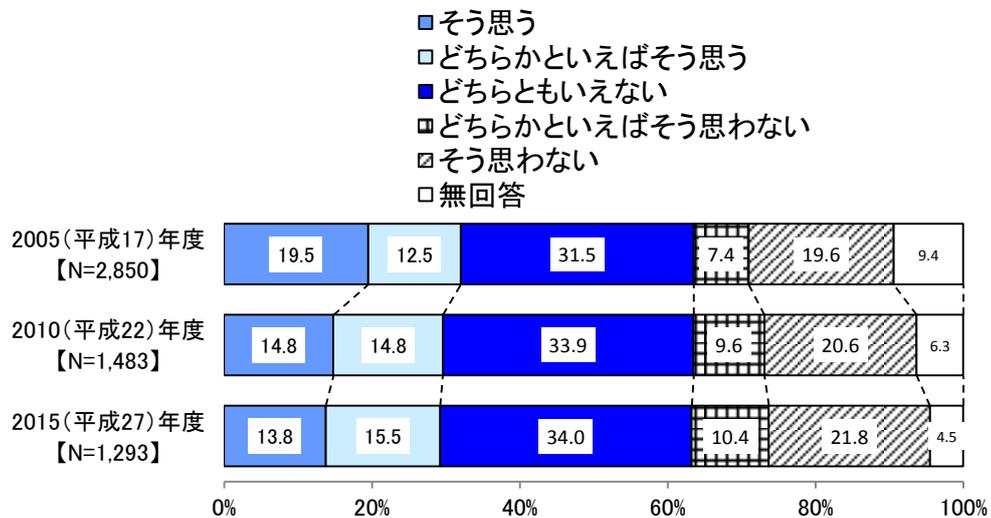
【図表 1-10-6 キ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、

協働して差別のない「まちづくり」を進めるの推移】



「キ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」の推移をみると、前回調査は前々回調査と比べて“肯定派”が減少し“否定派”が増加したが、今回調査は前回調査と比べて“否定派”については大きな変化はみられないが、“肯定派”が4.7ポイント増加している。(図表 1-10-6)

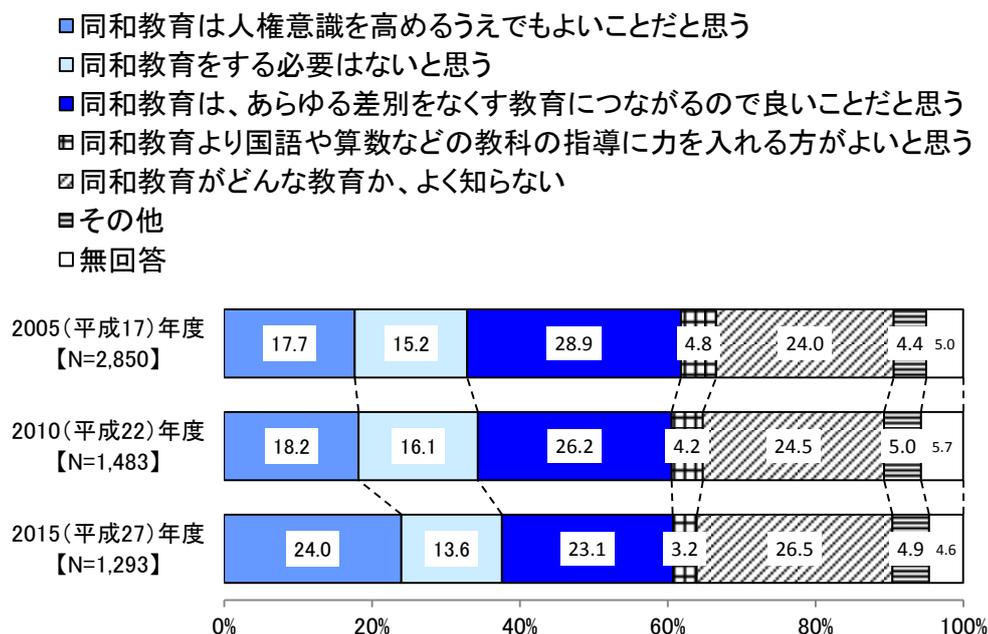
【図表 1-10-7 ク. 法律で差別を禁止するの推移】



「ク. 法律で差別を禁止する」の推移をみると、“肯定派”が減少し、“否定派”が増加している傾向がややみられる。(図表 1-10-7)

(11) 学校での「同和教育」について（問 18）

【図表 1-11 学校での「同和教育」についての推移】



※前々回・前回調査では、「同和教育は、あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」は「同和教育を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだと思う」となっている。

学校での「同和教育」についての推移をみると、「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」と「同和教育をする必要はないと思う」については前々回調査と前回調査でおおきな変化はみられなかったが、今回調査は前回調査と比べて「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」が 5.8 ポイント増加、「同和教育をする必要はないと思う」が 2.5 ポイント減少している。「同和教育は、あらゆる差別をなくす教育につながるので良いことだと思う」は減少している傾向がみられる。(図表 1-11)